私たちの日本遺産

―祈る皇女斎王のみやこ 斎宮―

日本遺産

年	組

［クイズ・斎王(さいおう)＆斎宮(さいくう)の解答(かいとう)］

Q1: 倭姫命(やまとひめのみこと)　Q2: 御杖代(みつえしろ)　Q3: 真弦(まつる)　Q4: 斎王群行(さいおうぐんこう)　Q5: 神嘗祭(かんなめさい)、月次祭(つきなみさい)

Q6: 恬子内親王(やすこ ないしんのう)　Q7: 源氏物語(げんじ)　Q8: 源氏香(そうか れん)　Q9: 女　Q10: 斎宮寮(さいくうりょう)

明和町

明和町日本遺産活用推進協議会
（事務局：三重県明和町　斎宮跡・文化観光課）

文化庁

この冊子は日本遺産魅力発信推進事業で制作したものを平成30年度に増刷したものです。

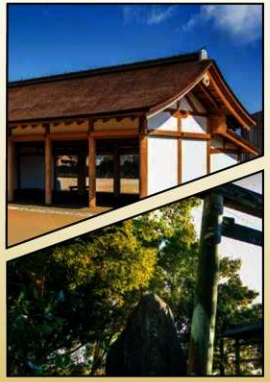
明和町の日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」

私たちのまち「明和町」は、伊勢神宮の天照大神に仕えた皇女「斎王」の宮殿「斎宮」があったところです。斎宮は660年もの長い間続き、明和町にさまざまな歴史や物語を残してくれました。それらは今も町内のあちこちに残り、地元で語り継がれています。

そうした斎王の物語は、2015年に「祈る皇女斎王のみやこ斎宮」として全国で初めて日本遺産になりました。

斎宮があったただひとつの場所として、守り続けられてきた斎宮跡の発掘調査も進んでおり、みなさんの小学校の近くにも斎王や斎宮に関係するものが多くあります。日本遺産について知ることは、きっとみなさんが大人になったとき、明和町のことを多くの人に紹介するのに役立つことでしょう。

この本はそんな日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」のストーリーをとおして、みなさんに日本遺産のことを知ってもらうものです。これを読んで明和町の日本遺産について理解を深めましょう。



日の丸の下の模様のようにみえるのが「JAPANHERITAGE」という英語をデザイン化したもので、「日本遺産」という意味です。

目次

伊勢の入り口 …… 4
天照大神をまつった 佐々夫江行宮跡 …… 6
真鶴の伝説 カケチカラ発祥の地 …… 8
神の世界との境界 大いなる海での禊 祓川 …… 10
斎王尾野湊御禊場跡 …… 12
はかない恋の物語 源氏物語に登場 菜平松 …… 14
みやびな暮らしを物語る 竹川の花園 …… 16
競劇の斎王 斎宮跡出土品 …… 18
受け継がれた幻の宮 斎王の宮殿があった 隆子女王の墓 …… 20
斎王の森 …… 22
祈る皇女斎王のみやこ 竹神社（野々宮） …… 24
斎宮関連施設 斎宮跡 …… 26
斎王のみやこMAP …… 28
…… 30

主な登場人物

①伊勢の入り口　大淀

日本神話と斎王の始まり

斎王の歴史は、
日本神話の時代までさかのぼります。

伊勢と大淀

第10代崇神天皇のとき、世の中に病気がはやったのを悲しんだ崇神天皇は、大和（現在の奈良県）の宮廷でまつっていた天照大神を別の清浄な地でおまつりするように皇女（娘）の豊鍬入姫命に言いました。そこで最初にまつったのが宮廷に近い「笠縫邑」（現在の奈良県桜井市・檜原神社とされる）です。豊鍬入姫命は最初に天照大神をまつった皇女で、初代斎王とされています。

しかし、さらに清浄な地を求めて旅に出ることに決まると、豊鍬入姫命は垂仁天皇の娘の倭姫命に跡を引き継がせました。倭姫命は大和を離れ、天照大神をおまつりできるさらに良い地を求めて色々な国を旅しました。長い旅の末にたどり着いたのが現在の明和町大淀で、昔はここも伊勢国と呼ばれており、伊勢神宮への入り口と考えられていました。また、船で大淀に着いた倭姫命は、海が大いに淀んでいて航海がしやすかったことを喜んで、この地を「大淀」と名付けました。

※次のページでも倭姫命と天照大神のお話を紹介します。

②天照大神をまつった　佐々夫江行宮跡

旅をする天照大神

天照大神は行宮を造りながら移動し、最も良い場所である現在の伊勢神宮に着いたとされています。

斎王の始まり

豊鋤入姫命の跡を継いだ倭姫命は大和を離れ、天照大神をおまつりできる地を探して、伊賀（今の三重県）、近江（今の滋賀県）、美濃（今の岐阜県）、尾張（今の愛知県）などの諸国を旅しました。豊鋤入姫命と倭姫命は天照大神の代わりとなって鎮座の場所を探す「御杖代」と呼ばれました。これが天皇の代わりに天照大神に仕える「斎王」の始まりとなりました。

倭姫命は大淀に船をとどめ、仮の宮となる「佐々夫江行宮」を造り、天照大神をおまつりしました。今は伊勢市に天照大神がおまつりされていますが、少しの間明和町の山大淀におまつりされていたのです。笹笛橋の近くの田んぼの中に「竹佐々夫江旧跡」と書かれた石碑がその跡とされています。

③真鶴の伝説

カケチカラ発祥の地

伊勢神宮のお祭りの中で、最も重要なお祭りが、その年に収穫された新米を天照大神に捧げて感謝する「神嘗祭」です。これが「懸税」と呼ばれるならわしです。

「懸税」のならわしは、どのように始まったのでしょう。それは伊勢神宮ができた後のある年の秋でした。

伊勢神宮とカケチカラ

伊勢神宮の「神嘗祭」で玉垣にかけられる「カケチカラ」。そのはじまりは倭姫命と真鶴の伝説によります。

伊勢神宮と斎宮と明和町

斎王が暮らした「斎宮」は、伊勢神宮からおよそ15キロメートル離れた明和町斎宮に造られました。その理由ははっきりとはわかっていませんが、この真鶴伝説からも明和町と伊勢神宮が深い関係を持っていたことがわかります。

この伝説が由来となって、伊勢神宮の神嘗祭では、その年に初めて実った稲穂を束ねて内玉垣にかけ、国の繁栄を祈る「カケチカラ行事」が始まったとされています。明和町根倉にある「カケチカラ発祥の地」には、鳥居と石碑が建てられています。根倉は古来には稲倉とも呼ばれていたそうで、昔から米が多く作られていたことがわかります。

祓川

天皇の代わりに、伊勢神宮の天照大神に仕える「斎王」は、天皇が位につくときに、未婚の娘またはその親せきから選ばれました。

斎王は、「潔斎籠」という輿に乗って斎宮へと向かいます。

都を出発した斎王は数百人のお供が付き添い5泊6日をかけて斎宮に向かいます。この旅は「斎王群行」と呼ばれました。

都から斎宮へ

「斎王制度」ができると、都からの群行ルートが決まりました。斎王は祓川で最後の禊をしてから、神の土地である斎宮へと入りました。

天皇が交代したり不幸があると斎王も交代することになっていました。良くないことがあって都に帰るときは来た道と別のコースを通りました。

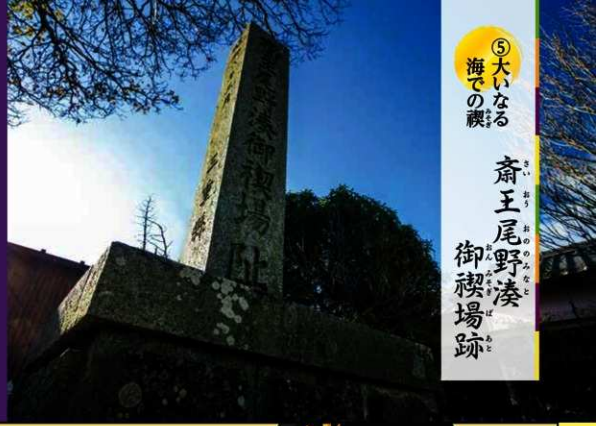
そして伊勢神宮の聖なる領地の入り口を流れる「祓川」で「禊」を行ってから斎宮に入ります。

斎王と祓川

「壬申の乱」で勝利を願って天照大神に祈りを捧げた大海人皇子（後の天武天皇）が勝利をおさめた後に、皇女（娘）である大来皇女を斎王として伊勢に向かわせたのが、「斎王制度」の始まりとされており、大来皇女は実在したことがわかっている最古の斎王です。

そして、占いによって選ばれた斎王が、都から斎王の宮殿である「斎宮」まで群行する時、伊勢神宮の領地の入り口である「祓川」で禊をしました。これは都から数えて6回目になる最後の禊で、「祓川」が神の世界との境界になっていました。

禊とは、心と体を水で清めることで、「けがれを祓う」という意味から、「祓川」という川の名前が付きました。



⑤大いなる海での禊　斎王尾野湊御禊場跡

斎王は年に3回、9月の神嘗祭と6月・12月の月次祭に伊勢神宮に行き、お参りをするのが大きな役割です。斎宮での日々でもさまざまな祭祀を行っていました。

そして伊勢神宮へのお参りの前には、大淀の海（尾野湊）で禊をします。

伊勢神宮にお参りする斎王

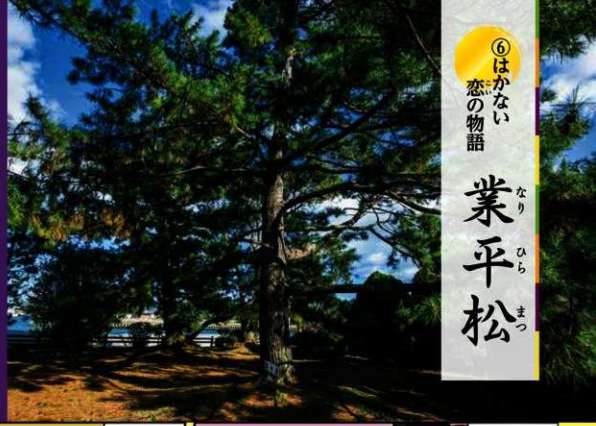
斎王の主な役目は、天皇に代わって伊勢神宮の天照大神に仕えることでした。

斎宮から伊勢神宮までは約15キロメートル。今なら車ですぐですが、当時は2泊3日もかかりました。

斎王と禊

大淀海岸の業平松の近くに、「斎王尾野湊御禊場跡」と書いた大きな石碑が建てられています。「尾野湊」というのは、大淀海岸の古い名前で、昔はこの石碑のところまで海だったようです。

斎宮から大淀海岸までは直線でも8キロメートルほどあり、斎王が行くのには遠く、手間がかかりました。そのため、秋の実りを感謝するお祭りで、朝廷と伊勢神宮のみ行われていた重要な「神嘗祭」の禊だけは、大淀で行い、あとの2回の「月次祭」の禊は、斎宮に近い祓川で行われていました。



⑥はかない恋の物語 業平松

『伊勢物語』に書かれた斎王の恋

平安時代の貴族に在原業平というたいそうな美男子がいました。

斎王と王朝文学

平安時代に書かれた『伊勢物語』という物語の中にある在原業平と当時の斎王だった恬子内親王をモデルにしたのが「狩の使」の物語です。

ほかにも『大和物語』や『栄華物語』、『増鏡』など平安時代の宮中を舞台にした王朝文学には、斎王の悲しい運命ゆえの恋の物語がたくさん書かれています。

平安時代の代表的な物語として現代でも多くの人が読んでいる『源氏物語』にも斎王をモデルにした登場人物がいます。斎王の存在が王朝文学に与えた影響がいかに大きいかわかります。

⑦源氏物語に登場 竹川の花園

源氏物語に登場する斎王

平安時代を代表する「源氏物語」にも斎王や斎宮にまつわる話が描かれています。

斎王と源氏物語

祓川の東、100メートルのところ、近鉄線路のそばの樹木の下に、「花園旧趾」と書かれた石碑があり、そこには歌が刻まれています。

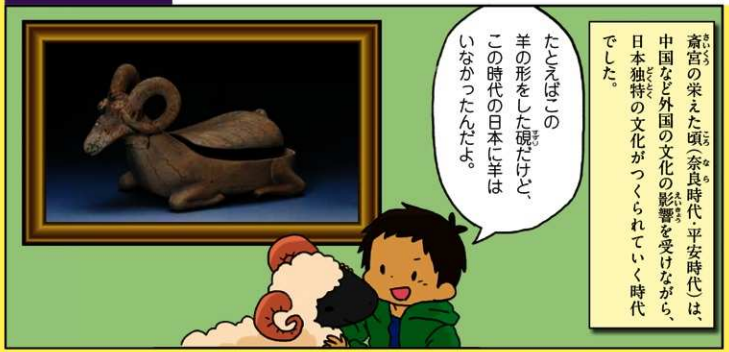
「源氏物語」の「竹河」の帖では、登場人物が「竹河」という催馬楽「平安時代の歌謡」を歌う場面が書かれており、これが「竹河」の帖の名の由来とされています。「竹河」は祓川のことを指し、歌の内容からその近くに花園があったことを意味しています。それが「竹川の花園」として伝えられてきたのです。

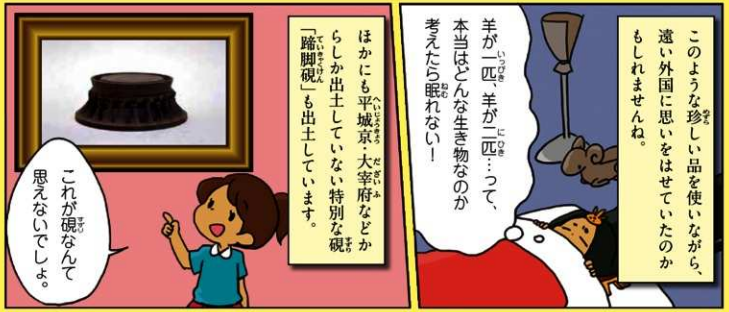
現在は田んぼが広がっていますが、「源氏物語」の時代には川に近い湿地だったと思われ、季節にはショウブが咲き、それらを丘の上の斎宮から見たら、素晴らしい景色だったことでしょう。

⑧みやびな暮らしを物語る 斎宮跡出土品

斎宮での暮らし

斎宮跡の発掘調査で見つかった出土品からは斎王の暮らしの一端がうかがえます。





斎宮での暮らし

斎王の斎宮での暮らしは、天皇に代わって伊勢神宮をお参りし、祈りを捧げる慎ましやかな生活の一方で、日常生活は懐かしい都をしのぶように、「貝合せ」や「盤双六」など都での遊びをしたり、歌を詠むといった、みやびな暮らしもされていました。

それを証明するように斎宮跡の発掘調査では祭祀に使われたと思われる40センチメートルをこえる、全国一の大きさの朱塗りの土馬が発掘された一方で、都で貴族達が使っていた緑色に発色する焼き物「緑釉陶器」も数多く出土しています。これは、美濃（今の岐阜県）、近江（今の滋賀県）、平安京周辺（今の京都府）で作られており、斎宮の華やかな生活を裏付けています。

⑨悲劇の斎王　隆子女王の墓

斎王の中には、わずか5歳で斎王に選ばれた姫もいます。小さな女の子が親や都から離れるのは、寂しくて、つらかったことでしょう。中には斎王に付き添って、母親が伊勢まで一緒に行った親子もいます。

いつ帰ってこられるかもわからないなんて…

平安時代中期、醍醐天皇の孫女・隆子女王が、斎王として斎宮に向かいました。

伊勢はどんなところなのかしら…

しかし、わずか3年で…

隆子女王様、きっと治りますよ！

斎宮で亡くなった斎王

ふるさとの都から離れ、病気のために斎宮で亡くなった隆子女王は手厚く葬られました。

病で亡くなった隆子女王は、都に帰ることはなく、この地に手厚く葬られました。

斎王の中で10年以上務めた人は15人くらいです。隆子女王は斎宮で亡くなった初めての斎王でした。

斎宮コラム①

斎王が乗った輿「葱華輦」

都から斎宮に向かうとき、斎王が乗る輿は、屋根に金色の葱の華の形をした飾りが付いていたので、葱華輦と呼ばれました。当時は、天皇と皇后、斎王など特別な人しか乗ることができない乗り物だったのですよ。斎宮歴史博物館には、当時の葱華輦を再現したものが展示されています。

斎王の解任

天皇が亡くなったり、その座を譲られたりしたときや、肉親が亡くなるなどの不幸があると、斎王はその役目を終わります。これを「退下」といい、別の建物に移った後に都へと帰ります。斎王の中には伊勢に来る前に肉親が亡くなり、役目を交代した人や、一年ほどで都に帰った人もいたそうです。斎王に選ばれた人の多くは5才から15才の少女が中心でした。

隆子女王の年齢はわかっていませんが少女と考えられ、疱瘡（天然痘）という伝染病で亡くなりました。現在、隆子女王の墓は宮内庁で管理されており、地元の方によって常にきれいに保たれています。

お墓は地元では姫塚、小松塚と呼ばれていたんだ。隆子女王の別名の「小松院」に関係しているのかな。

明くん

私たちと歳が変わらない斎王もたくさんいたのね。

和ちゃん

⑩受け継がれた幻の宮 斎王の森

幻の宮になった斎宮

斎王制度が廃止された後も、斎宮は長年「幻の宮」と呼ばれ、伝承されました。

幻の宮「斎宮」

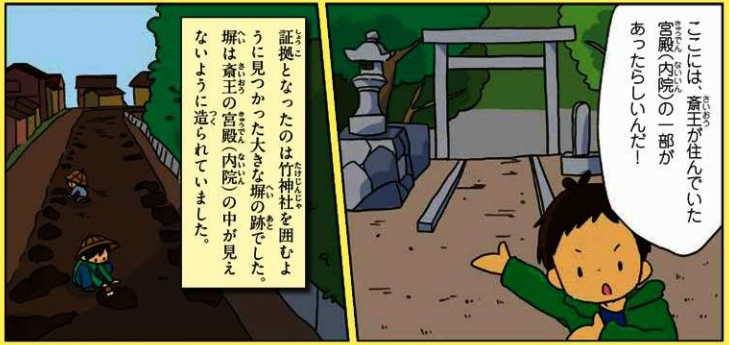
660年間も続いた斎王制度は、60人あまりの斎王の登場をもって終わりを迎えました。そして、斎宮は長年「幻の宮」と呼ばれ、地元では伝承が残っていたものの、場所すらわからなくなっていました。

「斎王の森」は、地元で斎王の宮殿があった場所として語り継がれ、斎宮のシンボル的な森として守られてきたところです。江戸時代に描かれた絵図にも「斎王の宮」として鳥居とともに記され、古くから人々に信仰されていた様子がわかります。現在は神宮司庁が管理していますが、今でも地元の人たちによって清掃活動が行われています。

⑪斎王の宮殿があった 竹神社（野々宮）

斎王の宮があった場所

竹神社（野々宮）は神様がおまつりされた神社であり、斎王の宮があった神聖な場所です。



斎宮コラム⑫ 日本最古の「いろは歌墨書土器」の発見

竹神社の近くで2010年に行われた調査で出土したのが、「いろは歌」の書かれた土器です。平安時代後期のもので、ひらがなで書かれた「いろは歌」としては日本最古となります。紙が貴重だった当時、斎王に仕える女官が、文字を覚えるために書いたものとされており、当時の文化を知るうえでもとても貴重な発見となりました。

内院での暮らし

竹神社は江戸時代には「野々宮」とも呼ばれ、斎王が体を清めた野々宮（今の京都府京都市の野々宮神社など）にあやかったものとされています。江戸時代にすでに「幻の宮」となっていた斎宮を観光するため、伊勢参りの名所にもなっていたようです。

昭和時代に行われた発掘調査で、神社の周りを調査したところ、平安時代の大きな板塀が今の神社を囲むように造られていたことがわかりました。さらに、墨でひらがなが書かれた土器も多く見つかりました。平安時代のころ、ひらがなは主に女性が書くものであったため、ここに女性が多くいたことがわかりました。そういったことから竹神社の場所には斎王の住まいである「内院」があったことがわかりました。

⑫祈る皇女 斎王のみやこ 斎宮跡

斎宮跡の発掘調査

斎宮跡の調査が始まったのは、斎王制度がなくなってから約700年後、昭和時代のことでした。

1970年（昭和45年）に、現在「斎宮歴史博物館」が建っているところで初めての発掘調査が行われ、長い間埋もれていた斎宮が再びその姿を現し始めました。

そして、1979年に国の史跡に指定されました。

斎王制度を支えたのは「斎宮寮」と呼ばれる役所で、斎宮寮の長官が重要な儀式を行ったり、都からの遣いの者をもてなした「寮庁」には3つの中心的な建物があり、発掘された場所に実物大で復元されています。

斎宮コラム③

都のような「方格地割」があった斎宮

斎宮跡の大きさは、東西約2キロメートル、南北約0・7キロメートル、全体の面積は137・1ヘクタールと、およそ甲子園球場35個分もあるとても広いものです。また、斎宮跡には「方格地割」という1辺120メートルの四角を組み合わせて造った道の区画がありました。そこには100棟をこえる建物がきれいに並び、500人をこえる人たちが働く、まさに大都会でした。

よみがえる斎宮

1970年（昭和45年）に始まった発掘調査によって、「幻の宮」とされてきた斎宮がどんなものであったのかがわかってきました。発掘調査では、昔に建っていた建物の柱あとなどを、土の遺いによって見わけます。それによって、どのぐらいの大きさの建物があったのかがわかります。

斎王が住む宮殿には、斎宮寮という役所もあり、斎王の暮らしやおまつりに必要なものをととのえていました。その中心である斎宮寮庁を復元した「さいくう平安の杜」にある建物（正殿、西脇殿、東脇殿）も、発掘調査で見つかった柱あとの上に造られています。

もっと知りたい、学びたい！そんな気持ちに応えるおすすめの施設です。

幻の斎宮跡が整備された「さいくう平安の杜」をはじめ、明和町には斎王・斎宮について学べるいろんな施設があります。行ったことがない人は、日本遺産の文化財と一緒に立ち寄ってみてください。今まで以上に斎王のことが、身近に感じられるはずです。

史跡公園「さいくう平安の杜」

平安時代の斎宮が体感できる史跡公園として、2015年にオープンしました。斎宮寮の長官が重要な儀式を行った正殿や、『伊勢物語』にも登場する宴会の場所と考えられる西脇殿の建物、15mの幅がある「方格地割」の道路などが復元されています。これらは発掘調査で見つかった柱や溝の跡の上に復元されています。ヒノキの皮をのせる「檜皮葺き」の屋根もぜひ見てください。

斎宮VR（バーチャルリアリティ）でよみがえる平安時代の斎宮

さいくう平安の杜では、貸出用タブレットを使って斎宮VRを体験することができます。復元された建物と見比べながら、斎宮でどんなことが行われていたか見てみましょう。

復元された3つの建物

左が宴会などに活用されたとされる「西脇殿」。真ん中手前が儀式の前に役人が待機したり、儀式の準備に使われたとする「東脇殿」、右手奥が斎王の宮殿に次ぐ斎宮のシンボル「正殿」です。

史跡公園「さいくう平安の杜」
三重県多気郡明和町大字斎宮2800
時　間　9:30～17:00（但し、入園は16:30まで）
料　金　無料
定 休 日　月曜日（祝日・国民の休日である場合を除く）祝日・国民の休日の翌日（土曜日を除く）・12月29日～1月3日
※開園時間・休園日については季節や都合により変更する場合があります。

斎宮歴史博物館

斎宮跡に建つ三重県立の博物館です。斎宮跡の発掘成果をはじめ、斎王が乗った輿や、斎王が神宮で行う祭祀の様子を再現したマジックビジョンなど、資料や模型、映像などで斎王の役割や当時の斎宮の様子を紹介しています。ここでしか見られない斎宮に関する貴重な展示を見ることができ、映像展示『斎王群行』は、都から伊勢への斎王の旅を再現した貴重な情報です。

斎宮歴史博物館
三重県多気郡明和町大字竹川503　☎0596-52-3800（代）
時　間　9:30～17:00（但し、入館は16:30まで）
料　金　一般／340円、大学生／220円、小中高／無料
定 休 日　月曜日（祝日・国民の休日の場合を除く）祝日・国民の休日の翌日（土・日曜日の場合は除く）・12月29日～1月3日

いつきのみや歴史体験館

平安貴族の住まいをモデルにした寝殿造りの建物は、三重県産の杉・桧を使用し、釘を使わない伝統工法により建てられた古代建築です。斎宮が最も栄えた平安時代の歴史や文化を身近に体験・学習できます。貝合せや盤双六など当時の遊びや、衣冠束帯に乗るなど貴族の生活文化を体験できるほか、本格的な王朝貴族の装束が試着できます。

いつきのみや歴史体験館
（公益財団法人国史跡斎宮跡保存協会）
三重県多気郡明和町大字斎宮3046-25　☎0596-52-3890
時　間　9:30～17:00（但し、入館は16:30まで）
料　金　無料（体験プログラムは一部有料）
定 休 日　月曜日（祝日・国民の休日の場合を除く）祝日・国民の休日の翌日（土・日曜日の場合は除く）・12月29日～1月3日

史跡水池土器製作遺跡

斎宮や伊勢神宮で使う土器が作られたとされる奈良時代の遺跡。土器を焼く小さな窯や井戸、建物跡など当時の土器の作り方がわかる全国でも珍しい遺跡です。1977年に国の史跡に指定され、現在は公園になっています。

三角形の形をしたものは、復元された土器の窯跡で、遺跡の真ん中を囲むように造られており、計画的な土器作りがなされていたことがわかりました。

史跡水池土器製作遺跡
三重県多気郡明和町大字明星1646
☎0596-52-7138（明和町斎宮跡・文化観光課）

斎王のみやこMAP

日本遺産の文化財と関連施設の場所を
地図で確認しながら歩いてみよう!

Q&A

答えはウラを見てね。ほかにも日本遺産について
知りたいことやわからないことがあれば、
明和町斎宮跡・文化観光課(役場の2階にあるよ)に聞いてみよう。

Q1：明和町の「大淀」という名前は誰が名付けたものでしょうか。(ヒント P5)

Q2：「斎王」の始まりとなった豊鍬入姫命と倭姫命はなんと呼ばれていたでしょうか。(ヒント P7)

Q3：八百の穂をくわえていた鳥で、伝説にもなっている鳥の名前はなんでしょう。(ヒント P9)

Q4：斎王が都から5泊6日かけて斎宮に向かった旅をなんというでしょう。(ヒント P10)

Q5：斎王が伊勢神宮に行くのは、なんというお祭りのときでしょう。(ヒント P12、13)

Q6：『伊勢物語』に書かれた斎王のモデルは誰でしょう。(ヒント P15)

Q7：平安時代に紫式部によって書かれた物語はなんでしょう。(ヒント P16)

Q8：天皇や斎王しか乗れなかった特別な乗り物はなんでしょう。(ヒント P21)

Q9：平安時代にひらがなを使っていたのは、女か男どちらでしょうか。(ヒント P25)

Q10：斎王制度を支えたのは、なんという組織だったでしょうか。(ヒント P27)